

NEW!

健康運動指導者の挑戦！学会発表

第1回

学会の敷居は高くない

学会は、学術大会や講演会を開催し学会誌を発行して、すべての会員が対等な立場で自分の研究結果を発表し、その妥当性を公開の場で討議する機会を提供する団体です。このため、国は一定の要件を満たした団体を「日本学術会議協力学術研究団体」として指定しています。

この堅苦しい響きゆえ、健康運動指導者の方に学会に参加し発表することに構えてしまう方もいらっしゃるでしょう。本連載では、堅苦しく見えるものが、実は初学者にとって最適な学習・研鑽の場を提供するためのものであることを解説していきたいと思います。

学会は研究者の集まりです。つまり、学会に入ることによって一人の研究者として認められることとなります。入会には会員または役員の推薦を必要とすることが多いのですが、探してみると意外に簡単に見つかるものです。見つからなければ学会の事務局に相

日本公衆衛生学会理事・評議員
(一財)宮城県成人病予防協会学術・研究開発室長

小島 光洋

談してみましょう。私の個人的な経験ですが、お願いの手紙を入会申込書に添えたことがあります。読者の皆さんなら、理事長・常務理事が学会の役員も務めている健康・体力づくり事業財団に相談する方法もあります。どの学会に入るかで迷うことも多いでしょう。関心のある学会全部に入ればよいのですが、年間1万円近い会費の負担は大変です。とりあえず、学術大会が自分の地元で開催される時に出かけてみましょう。参加費を払えば会員でなくても聴講できます。講演や発表を聴くと、その学会のもつ雰囲気に分かります。

日本公衆衛生学会の総会では、メインプログラムのほかに自由集會を開催しています。こちらは参加費は不要です。健康・体力づくり事業財団は、健康づくりと運動に関する自由集會を毎年主宰していて、今年は11月初めに栃木県宇都宮市が会場です。機会がありましたら是非お立ち寄りください。